残したことに対して、主催者には深い反省を求めたいし、県や町の関係当局には、国定公園が大きく改変されたことの詳しい実態の解明と改善をお願いしたい。看板にあるように(写真4)、自然の動植物をながく子孫に伝えましょう。

参考文献

池野一男ほか. 1976. 角田山塊の自然― 角田山塊自然総合調査報告書―. 373 pp. 佐藤力夫(編)、巻町・潟東村教育委員会.

倉沢甚一郎・篠山健・長谷川晃・桑原孝. 1979. 西蒲自然ガイド No.3.―水生動物―. 26 pp. 西蒲地区理科教育センター.

佐藤七郎. 1995. 角田山の植物 1.新潟：弥彦連山の植物. 第2集 31-38. 石沢進(編)、弥彦村教育委員会.

佐藤七郎. 1996. 角田山の特に魅せられて　照顧2号:7～8.

石川　進. 1996. 山頂にブナ等植樹　照顧2号:11～12.

(1996年12月)

角田山山頂の植物
―過去の記録に見る―

角田山に登って植物を初めて調べたのは、1960年 8月 20日のことである。植物を採集し、乾燥標本として保存しはじめた初期のころである。山頂に生育する植物すべてを採集することができなっかたが、標本として保存している植物を列記すると次のようである。当時、木本を重点的に採集していたので、主に樹木だけである。

オオキツネヤナギ、ミズナラ、ツクバネ、タムシバ、ケアブラチャン、オオバクロモジ、マルバマンサク、ウワミズザクラ、ニガイチゴ、クマイチゴ、ツシマナナカマド、フジ、ヌルデ、ハイイヌツゲ、オクノフウリンウメモドキ、ヤマモミジ、ハウチワカエデ、アカイタヤ、アキグミ、ヤマボウシ、リョウブ、ハナヒリノキ、ヤマツツジ、ホツツジ、エゴノキ、マルバアオダモ、ムラサキシキブ、ガマズミ、ミヤマガマズミ、オヤマボクチ、チマキザサ

その当時、山頂付近は藪で、細い道がその中を縫うようにつけられ、木々の間を通り抜けて採集した記憶がある。

その後の調査で、分布を確認した植物もあるが、ここでは、最初に確認した種だけを掲載した。従って、分布していた種数は少なく、山頂の植物のごく一端を示すものでしかない。別の機会に改変前の植物相を確かめ、記録として整理しておきたいと思っている。角田山の山頂部に限った記録や資料（写真）があったら提供して頂ければ幸いである。

一度大きく改変してしまったら、元の状態に戻すことの可能性が極めて薄い。大変残念なことであるが、せめて山頂部に生育していた植物の記録を残しておくことが、この時点では大切なことと考えている。　(石沢　進)

角田山山頂に生育し、秋に美しく紅葉するシラキ(1995 10 19)
新潟県内では、佐渡に多いが、越後では海岸沿いの山地に限って分布する。
角田山では、山頂にも生育し、越後で高海抜の分布地点の一例である。